

\*\* 2004年1月改訂(第4版)  
\* 2002年7月改訂

日本標準商品分類番号
8 7 4 4 1 9

## 抗ヒスタミン剤

貯 法：気密・しゃ光・室温保存  
使用期限：外箱等に記載

**ポララミン®** 錠 2mg  
**ポララミン®** 散  
POLARAM NE®

	承認番号	薬価収載	販売開始
錠 2 mg	(43AM輪)240	1976.09	1959.10
散	(55AM)367	1976.09	1965.09
再評価結果：1975.12			

d-マレイン酸クロルフェニラミン製剤

**シエリング・ポラウ**

### 【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

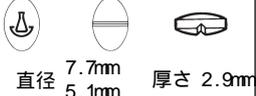
- (1) 本剤の成分又は類似化合物に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 緑内障の患者〔抗コリン作用により眼内圧が上昇し、緑内障が増悪することがある。〕
- (3) 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者〔抗コリン作用により排尿困難、尿閉等があらわれ、症状が増悪することがある。〕
- (4) 低出生体重児・新生児(「小児等への投与」の項参照)

### \*\*【組成・性状】

#### 1. 組成

ポララミン錠 2 mg		1 錠中の含有量
有効成分	日局d-マレイン酸クロルフェニラミン	2 mg
添加物	デンプン、乳糖、ステアリン酸マグネシウム	
ポララミン散		1 g中の含有量
有効成分	日局d-マレイン酸クロルフェニラミン	10mg
添加物	デンプン、乳糖	

#### 2. 性状

	ポララミン錠 2 mg	ポララミン散
剤形	裸錠(割線入り)	散剤(粉末)
色	白色	白色
外形・大きさ	 直径 7.7mm 5.1mm 厚さ 2.9mm	

### 【効能・効果】

じん麻疹、血管運動性浮腫、枯草熱、皮膚疾患に伴う痒痒(湿疹・皮膚炎、皮膚痒痒症、蕁疹)、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽。

### 【用法・用量】

d-マレイン酸クロルフェニラミンとして、通常、成人には1回2mgを1日1～4回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
  - (1) 眼内圧亢進のある患者〔抗コリン作用により眼内圧が上昇し、症状が増悪するおそれがある。〕
  - (2) 甲状腺機能亢進症のある患者〔抗コリン作用により症状が増悪するおそれがある。〕
  - (3) 狭窄性消化性潰瘍、幽門十二指腸通過障害のある患者〔抗コリン作用により平滑筋の運動抑制、緊張低下が起こり、症状が増悪するおそれがある。〕
  - (4) 循環器系疾患のある患者〔抗コリン作用による心血管系への作用により、症状が増悪するおそれがある。〕

- (5) 高血圧症のある患者〔抗コリン作用により血管拡張が抑制され、血圧が上昇するおそれがある。〕

#### 2. 重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

#### 3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 アルコール、 MAO阻害剤、 抗コリン作用を 有する薬剤	相互に作用を増強することがあるので、併用する場合には減量するなど慎重に投与すること。	中枢神経抑制剤、アルコール： 本剤の中枢抑制作用により、作用が増強される。 MAO阻害剤： 本剤の解毒機構に干渉し、作用を遷延化し増強することがある。
ドロキシドパ、 ノルエピネフリン	併用により血圧の異常上昇を来すおそれがある。	本剤はヒスタミンによる毛細血管拡張を抑制する。

#### 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献、自発報告等を参考に集計した。(再審査対象外)

##### (1) 重大な副作用

- 1) ショック(頻度不明): ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、チアノーゼ、呼吸困難、胸内苦悶、血圧低下等の症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 痙攣、錯乱(頻度不明): 痙攣、錯乱があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常があらわれた場合には、減量又は休薬等適切な処置を行うこと。
- 3) 再生不良性貧血、無顆粒球症<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>(頻度不明): 再生不良性貧血、無顆粒球症があらわれることがあるので、血液検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止すること。

##### (2) その他の副作用

	5%以上又は頻度不明	0.1%未満
過敏症 <sup>注1)</sup>	発疹、光線過敏症等	
精神神経系	鎮静、神経過敏、頭痛、焦燥感、複視、眠気、不眠、めまい、耳鳴、前庭障害、多幸症、情緒不安、ヒステリー、振戦、神経炎、協調異常、感覚異常、霧視等	
消化器	口渇、胸やけ、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、便秘、下痢等	
泌尿器	頻尿、排尿困難、尿閉等	
循環器 <sup>注2)</sup>	低血圧、心悸亢進、頻脈、期外収縮	
呼吸器	鼻及び気道の乾燥、気管分泌液の粘性化、喘鳴、鼻閉等	
血液 <sup>1)</sup>	溶血性貧血	血小板減少

